

# CASBEE® 名古屋

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 評価指南(2016年版、名古屋府環境保健局環境健康課環境用マニュアル2016) | 使用評価ソフト: CASBEE\_Nagoya\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	名古屋ビルディング桜館(旧(仮称)名古屋ビル 東館)	階数	地上12F
建設地	愛知県名古屋市中村区名駅4丁目213・214番1・215番1	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域、緑化地域、駐車場整備地区	平均居住人員	300 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,880 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、飲食店、工場	評価の段階	
竣工年	令和4年3月 予定	評価の実施日	2020年4月6日
敷地面積	1,275 m <sup>2</sup>	作成者	
建築面積	923 m <sup>2</sup>	確認日	2020年4月6日
延床面積	11,315 m <sup>2</sup>	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p><b>= BEE 1.5</b></p> <p>★:S:★★★★★ A:★★★★★ B+:★★★★ B-:★★★ C:★☆☆☆☆</p>	<p>☆☆☆☆ 100%超:☆☆☆ 100%:☆☆☆☆ 80%:☆☆☆☆☆ 60%:30%</p> <p>標準計算</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p><b>Q 環境品質</b></p> <p><b>Q のスコア = 3.3</b></p>		
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>Q1のスコア= 3.3</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>Q2のスコア= 4.0</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b></p> <p>Q3のスコア= 2.7</p>

LR 環境負荷低減性		
<p><b>LR のスコア = 3.4</b></p>		
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>LR1のスコア= 3.5</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>LR2のスコア= 3.5</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>LR3のスコア= 3.1</p>

3 設計上の配慮事項		
<p><b>総合</b></p> <p>注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。シンプルで良好な室内環境の確保する。</p>		<p><b>その他</b></p>
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。化学汚染物質の発生しない仕上げ材を採用し、室内環境の向上を図る</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。階高H=4.2mを確保し、壁長さ比率0.182により空間の形状・自由度を考慮する。</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b></p> <p>注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。見通しの良い環境とし、防犯性に配慮した計画。</p>
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。設備システムの効率化により、建築物の環境負荷を低減。</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。リサイクル資材を活用する</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。光害に配慮し、敷地外への影響の低減を図る。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

### 重点項目スコア・結果シート

名古屋ビルディング桜館(旧(仮称)名古屋ビル 東館)

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2  
 ■評価ソフト: CASBEE\_Nagoya\_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.4
LR1	エネルギー	3.6	0.4	/
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.7	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				2.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09143735	/
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009143735	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045718675	
3. 循環型社会				3.5
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	/
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.6	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.7	0.01875	

### 結果

1. 温暖化対策	評価点 = 3.4	
2. 自然共生	評価点 = 2.3	
3. 循環型社会	評価点 = 3.5	

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。